

営農ウィークリーNEWS

水稻、果樹でカメムシの注意報が発令



出穂の前から侵入してくるイネカメムシ

京都府病虫害防除所より水稻斑点米カメムシ類と果樹カメムシ類の注意報が7月24日に発表されました。

水稻では、畦にいて出穂後に田に入ってくるアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメ、ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、そして出穂直前から田に入ってくるイネカメムシが平年より多いとされています。斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にしているため、耕種的には出穂の10日前までに畦の草刈りを済ませることが重要です。

イネカメムシは出穂直前に田に飛び込んでくることから、従来より早い防除が必要になります。特に、籾基部を吸汁し、不稔籾を発生させることもあり減収となるため、注意が必要です。防除は、下図を参考にしてください。

早生種の場合



第1回 カメムシ類防除 キラップ粒剤などを使用。**イネカメムシ**がいた場合

第2回 カメムシ類防除 スタークル粒剤、スタークル豆つぶ

第3回 カメムシ類防除 スタークル粒剤、スタークル豆つぶなどを使用。
※発生状況に応じて

(裏面に注意報抜粋)

—TAC information—

京おくら栽培状況現地巡回実施



7月26日に、京都乙訓農業改良普及センター、京都市農業振興センター、京都乙訓地域特産物育成協議会、JA京都中央などの担当者11名で、大原野外畑、乙訓、向日、大山崎などの地域の、京おくら栽培圃場の巡回を行いました。全体的に、播種後3か月近くが経過し、肥料が切れている圃場が見られました。定期的な追肥で樹勢を維持し、オクラの実のスムーズな伸長を維持するように生産者に伝えました。

6 斑点米カメムシ類の防除上の留意事項

（1） 耕種的防除

斑点米カメムシ類はイネ科雑草の種子を餌にする。したがって、水田周辺のカメムシ類の生息密度を下げるためには、畦畔の草刈りを行うことが有効である。草刈りは、イネが出穂する2～3週間前と出穂直前の2回行うと効果的である。作業の都合上、1回で済ませる場合は、必ず出穂の10日前までに草刈り等を済ませる。出穂期に近づきすぎてから行くと、カメムシ類を水田に追い込み、かえって逆効果となる。水田内のイネ科雑草は、カメムシ類の水田への侵入を助長するので出穂前に除草する。

（2） 農薬による防除

カメムシ類の密度が高い水田では、薬剤による防除を穂揃期と傾穂期の2回行うことが望ましい。近年、イネカメムシの発生量が増加している。他の斑点米カメムシ類と異なり、出穂期に水稻の籾の基部を吸汁して不稔籾を生じさせ、穂が充実せず直立する。そのため、イネカメムシが多発している場合は、穂揃期以降ではなく出穂期から防除することが重要である。また、穂揃期以降に加害されると籾の基部が変色した斑点米を生じ、等級格下げの原因となる。農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては、使用基準を遵守して適正に使用する。



(写真1)アカヒゲホソミドリカスミカメ



(写真2)アカスジカスミカメ



(写真3)ホソハリカメムシ



(写真4)トゲシラホシカメムシ



(写真5)クモヘリカメムシ



(写真6)ミナミアオカメムシ